



「強いモノづくり」を支える 「技能と技術の融合」

近年、益々激化するグローバル競争で日本の製造業が勝ち残っていくためには、お客様に満足していただける「魅力ある新製品」を、世界の競合に負けない「品質や価格」でいち早く提供することが必須である。次々と新製品を開発し、商品化を果たしている「強いモノづくり」企業では、技術部門と技能部門が専門性と効率性を確保するため、役割分担していることが多い。その場合、開発設計技術者が高度な目標仕様で、新機構や新材料等の革新技术を導入して、画期的な新製品を使命感に燃えて開発する時、高度熟練技能者が、卓越した加工・製作技能を駆使し、例えば、超小型・超精密な試作品を製作し技術者の高度な構想を具現化している。

また、量産準備段階で生産技術者が、画期的な新加工法やハイテク制御技術を導入した新設備を開発する時、高度熟練技能者が高度な製作技能で短期間に新設備を製作している。そして製品の量産時には、設備の機構や機能を理解した熟練技能者が、正しい操作、的確な保全技能を発揮して、高い生産性と高品質な量産を維持している。また職場環境の変化や異常時には、高度で知的な判断技能を有する熟練技能者が、問題の発見と的確な対応により、さらに高い生産性や高品質な製品づくりへ改善している。

しかし、製品や設備の開発技術者が後工程の現場技能者側に、対応技能のレベルの高さや難度を理解・把握せずに、ムリに実現を要求した場合、現場が無策に要求に応えると、品質面での歩留まりやコストで大きな犠牲を被ることになる。一方、現場技能者側が開発技術仕様や目標の必要性をしっかりと認識し、なんとしても実現しようとする挑戦心や創意

工夫の努力が足りなかったり、対応する技能レベルが不足していると、画期的な新製品や設備開発の機会を失うことになる。

したがって、「強いモノづくり」の実現のためには、高いレベルの技術・技能と使命感や挑戦心の強いモチベーションを有する技術者と技能者が、密接なコミュニケーションのもとに開発目標を共通化し、その達成のために、お互いの弱点の補強・補完に協力し、あるいは対応力のレベルアップに努力する、両者一丸となり、車の両輪のような協力関係、すなわち「技術と技能の融合」が不可欠である。

しかしながら、昨今、将来を担う若い技術者が現場へ行かない、現場の実態を知らない。また一方で、若い現場技能者が技術部門へ高いレベルの経験ノウハウに基づく提案力がない、指示待ちで、相互の協力や融合関係がみられない状態のモノづくり企業が増えているように思われる。これでは、「強いモノづくり」の実現は思いも及ばない。

これからの「強いモノづくり」を実現していくためには、モノづくりの基盤である技術者と技能者のスキルとモチベーションのレベルを高める育成と、「技術・技能の融合」の重要性を理解し、彼らの能力を十分に引き出すことのできるマネジメント人材の育成が大きな課題であると思う。

いこま のほる

略歴 1966年 名古屋大学工学部卒業後、
(株)日本電装(現デンソー)に入社
1990年 電機技術部 次長
1991年 サービス部 部長
1998年 デンソー技術技能研修部 部長
デンソー工業技術短期大学校 校長
2001年 現職